

お礼の言葉

四谷消防署のみなさん、おはようございます。

昨年の東日本大震災の際には私たちの住む気仙沼市まで救助に来てくださり、本当にありがとうございました。

私たちは、気仙沼市内の小原木中学校に通っています。私たちの学校は海と山に囲まれた自然豊かなところに位置しています。しかし、昨年3月11日を境に3つあった地区のうち、2つの地区が大津波による被害を受け、壊滅状態になってしまいました。今まで自分たちが住んでいた町の変わりようを見て本当にこれが現実なのかと疑うほどショックでした。また、あの日、市内では火災が発生し、爆発音がいたるところで鳴り響き、火の海となりました。3日3晩燃え続け、本当にこの先どうなるんだろうと不安ばかりが募りました。そんなとき、気仙沼の鹿折に東京から何十台も消防車が来てくれているということを知り、「東京からこんなにも離れている気仙沼市まで私たちを支えに来てくれているんだ」とありがたかったのと、正直助かったと思いました。

こんなにも、私たちのため、気仙沼市のため、救助をしてくれた方々に、是非、感謝の気持ちを伝えたいと思い、今回私たちは修学旅行の研修の中に、四谷消防署訪問を考えました。

昨年の大震災では本当にありがとうございました。「私たちは一人で生きているんじゃない」と思った瞬間でもありました。あのような現状のさなか、署の方々もとても過酷な仕事だったと思います。それにもかかわらず先の見えない私たちを心から支えていただきました。町は少しずつではありますが、復興へと向かっています。まだ、いたるところ震災の爪痕は残っていますが、私たちも今できることを考え、大人の人たちと協力しながら頑張ろうと思います。

あのときの消防隊の方々の写真と私たちの気持ちをつづったものをまとめました。是非、受け取ってほしいと思います。これからの消防署員皆様のご活躍をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。

小原木中学校3年代表 柏